

SPORTS 北海道

北海道教育大学函館校 地域教育専攻
教授 吉村 功

【概要】

SPORTS北海道函館キャンパスは、地域の人々を対象に、スポーツの喜びを伝え、スポーツ活動を通じて地域住民の健康増進と豊かな生活を送ることに寄与するとともに、地域のスポーツ振興を図ることを目的とした活動である。本活動には、小学生から高齢者までを対象としたいくつかの定期的なスポーツ教室と、休日に行う1日企画がある。そして、北海道教育大学函館校内のサークル「SPORTS北海道」に所属する学生スタッフが中心となり、それぞれの年代の特徴やニーズに合ったスポーツ活動を企画し、運営を行っている。

【2022年度の主な活動】

< 定期教室 > (教育大学函館校体育館にて)			
名称	対象者	曜日・時刻	開催回数
① 「あそびすと」	小学1、2年生	火曜日 16:30~17:30	年18回
② 「Do遊パーク」	小学3、4年生	木曜日 16:30~17:40	年18回
③ 「冬期教室」	小学1~4年生	火曜日 16:30~17:40	年4回
④ 「すぼると広場」	高齢者	水曜日 10:15~11:45	年12回
⑤ 「スポーツ遊ING」	一般市民	水曜日 10:15~11:45	年14回

①~③のスポーツ教室では、子供たちがスポーツ本来の楽しさを味わいながら、スポーツで求められる能力（リズム能力・バランス能力・空間認知能力・反応能力・状況判断能力・運動用具を操作する能力など）を養うことを目指している。

④~⑤のスポーツ活動では、健康増進と豊かな生活を送ることに寄与することを主に目指している。ただし、高齢者のスポーツとなると、活動中における健康の問題があった時の対応が難しいため、④は「函館市地域包括支援センターときとう」との相互協力によって活動を行っている。

毎回、各教室終了後に、著者が学生スタッフにコメントを述べ、その後、学生スタッフ間で反省会を行う。これを基に、次回の教室前に各教室の学生リーダーと著者の間でミーティングを行う（「すぼると広場」では「函館市地域包括支援センターときとう」のスタッフも同席）。さらに、次回の教室の運動内容について、運動のねらい、難易度、安全面などについて検討する。



小学生対象定期教室の様子



高齢者対象定期教室の様子

＜1日企画＞			
名称	対象者	実施日	会場
① はこだて国際民俗芸術祭 「わくわくフェスティバル」	会場を訪れた子供たち	8月6日・7日	元町公園ペリー広場
② 夏企画	主として SPORTS 北海道に 参加している子供たち	9月11日	道南四季の杜公園
③ 函館山トレッキング	SPORTS 北海道に 参加している子供たち	10月15日	函館山
④ クリスマス会	主として SPORTS 北海道に 参加している子供たち	12月17日	教育大学函館校体育館
⑤ 冬企画	SPORTS 北海道に 参加している子供たち	2月11日	教育大学函館校グラウンド

- ① はこだて国際民俗芸術祭主催者からの依頼を受け、スポーツ遊びや‘うちわ作り’などのものづくりを行った。
- ② 水遊びを取り入れたスポーツレクリエーションを実施した。
- ③ 函館山をトレッキングし、山頂でのスポーツレクリエーションを実施した。
- ④ クリスマスの雰囲気が満載のスポーツレクリエーションを実施した。
- ⑤ 雪の中でのスポーツレクリエーションを実施した。



クリスマス会の様子

＜その他＞		
会場	内容	備考
鹿部町幼稚園	げんきっ子運動教室	次ページの新聞記事に掲載
函館アリーナ	わんぱく教室補助 ・ 親子体育教室補助	

【成果と今後の展望】

本活動への参加者からは、「楽しんでスポーツをしている」、「〇〇が前よりも上手になった」、「学生との交流が楽しみである」等の好評を得ている（アンケート調査より）。また、学生スタッフは、主体的に考え、行動する力を着実に身につけている。本活動が来年度で18年目を迎えるに当たり、今後のさらなる発展を期待する。

令和4年12月14日 北海道新聞17面

運動通じ地域と交流

函教大生のサークル「SPORTS北海道」

道教大函館校の学生が中心となり、地域のスポーツ振興に取り組む「SPORTS北海道」が地域に根付きつつある。地域の子どもや高齢者を通じてスポーツや体を動かす楽しさを紹介しており、学生が企画から運営、指導を手がける。住民との交流は、学生にとって貴重な学びの場にもなっている。（川内晴貴）



11月中旬の平日の夕方、道教大函館校の体育館で函館市内の小学1、2年の児童約30人が大縄跳びに挑戦していた。週1回の「運動教室」。指導に当たる学生たちが「うまい！」と声を上げると、子どもたちは笑顔を見せた。

教室は1回1時間。この日は縄跳びのほかにダンスやミニサッカーも行った。今春から参加する函館市立八幡小1年の太田大聖君（7）は「毎週いろいろなことができて楽しい」と話す。「SPORTS北海道」は、幅広い世代の人たちがスポーツを楽しめる環境づくりを目指し、2006年度にスタートした。当初は入道教大の学生と地域の子もたちが一緒に運動を楽しむ「SPORTS北海道」の教室

スポーツ教室の運営のほか、専門スタッフの派遣などにも取り組んだが、現在は学生が主体となって活動する。

20年度と21年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動機会が大幅に減った。22年度は小学1、2年生、3、4年生向けの運動教室のほか、平日昼には高齢者向けの体操やヨガの教室を月2回程度開いている。参加費は1回200円。現在、1〜4年の約80人が登録し、このうち20人が

学生の貴重な学びの場に

中心となって活動する。学生たちは年度当初の会議で鬼ごっこのような比較的簡単なレクリエーションを中心にするか、競技性の高いスポーツを多く取り入れるかなど大まかな方針を決め、直前に具体的な内容を固める。顧問の吉村功教授は「最初は何をすればいいかわからない学生たちも、徐々に周りを見て自発的に動けるようになる」と話す。

小学生向けの教室で指導に当たる3年の森田実咲さん（21）は「保護者とのやりとりや道具の製作などやることは多いが、子どもたちの成長を見るところれしくなる」。健康づくりを中心とした高齢者向けの教室を担当する3年の山崎裕香さん（21）は「卒業後は福祉分野の仕事に就きたいと思っており役立っている」とやりがいを感じる。

学生たちの工夫を凝らした教室は評判で、鹿部町の幼稚園に出向いての教室や函館市内の小学校で行うPTA活動のレクリエーション企画を担当したこともある。吉村教授は、地域住民との交流は学生にとって重要な経験だとし「運営面の課題を見つけ、改善するといいサイクルを通じ主体的に考える力を身に付けてほしい」としている。各教室の参加者の募集は毎年春に同校ホームページなどで行っている。